

発酵したチーズから天使が現れるような希望と安らぎ
3人で過ごしたかけがえのない時間



チーズとうじ虫

2005年山形国際ドキュメンタリー映画祭 小川伸介賞・国際映画批評家連盟賞受賞
2005年ナント三大陸映画祭 ドキュメンタリー部門 最高賞(金の気球賞)受賞



監督 加藤治代

光が満ち、ゆっくりと流れる穏やかな暮らし。その透明な眼差しに世界が絶賛!

2005年 山形国際ドキュメンタリー映画祭 小川紳介賞・国際映画批評家連盟(FIPRESCI)賞 受賞
2005年 フランス・ナント三大陸映画祭 ドキュメンタリー部門 最高賞(金の気球賞) 受賞
2006年 Doc Point ヘルシキ ドキュメンタリー映画祭 招待
2006年 イタリア・アルバ国際映画祭 招待
2006年 スイス・ビジョンドリール映画祭 招待

すばらしい感性と色彩感覚。
どの映像にも死を感じる。
でも死のなかに生命が宿っている。
——— 田口ランディ(作家)

肝心なものはひとつも映らない。
しかし、この「撮れなかった」ことの空白感が、
この作品を瑞瑞しく際立たせている。
——— 佐藤真(映画監督)

輪廻という真相を描いたというよりも、
輪廻への切ない幻想を描いた作品だ。
この叙情性はただものじゃない。
——— 森達也(ドキュメンタリー作家)

日本人はどうか、人間は
こうやって生きてきたし、
これからも生きていくんだなあと、
しみじみ思った。
——— 是枝裕和(映画監督)

まるで、じょうろで水を与えられるかのように、
「チーズとうじ虫」は大いなる安らぎを与えてくれる。
——— Quest france 紙(フランス)

チーズとうじ虫

「私が考え信じているのは、すべてはカオスである、すなわち、土、空気、水、火、などこれらの全体はカオスである。この全体は次第に塊になっていった。ちょうど牛乳のなかからチーズの塊ができ、そこからうじ虫があらわれてくるように、このうじ虫のように出現してくるものが天使たらなのだ」

——— メノッキオ
「チーズとうじ虫」カルロ・ギンズブルグ著 杉山光信訳 みすず書房

ものがたり

母親の看病のために故郷に帰ってきた加藤治代は、母親の病気が治る奇跡を信じ、撮影を始めます。そこでカメラに収められたのは、限られた命を精一杯生きる母と、高齢の祖母との何気ない日常風景でした。母親の死後、肝心なものがひとつ撮れなかったという空白感から、思い出を辿る祖母と自身の心情を記録していきます。

世界中の映画祭が称賛した新しい才能の誕生!

2005年山形国際ドキュメンタリー映画祭で小川紳介賞、国際映画批評家連盟賞のダブル受賞、フランス・ナント三大陸映画祭ドキュメンタリー部門グランプリをはじめ、各国の映画祭で話題を呼び、高い評価を得、2006年度も各国の映画祭から招待が続いています。

本作は、闘病記録でもなければ、死を感動的に煽ることもありません。社会に問題提起することもなければ、奇をてらったセルフドキュメンタリーでもありません。全編を通して伝わるのは、大きな母への愛情と家族の温もりです。チーズが発酵するように、ゆっくりと穏やかに伝わる、新しいドキュメンタリー映画が誕生しました。



監督:加藤治代 撮影:加藤治代/加藤直美/栗田昌徳/中嶋憲夫 整音:菊池信之/早川一馬/久世圭子 編曲:須賀大郎
出演:加藤直美/小林ふく他 配給:「チーズとうじ虫」上映委員会 宣伝:スリーピン [2005年/日本/DV/98分]

www.chee-uji.com

2008年7月11日〔金〕17:30~20:30 上映会・加藤治代監督講演開催

主催:東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE「死生学の展開と組織化」

お問い合わせ先:グローバルCOE 研究室 03-5841-3736 (TEL/FAX)

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/shiseigaku/

(入場料無料・事前申し込み不要)

東京大学本郷キャンパス医学部
教育研究棟 14階 鉄門記念講堂

